

総会基調講演

ポップな日本のテキスタイルデザインの創造

- 日時 2010年5月22日(土) 15:00~16:30
- 場所 綿業会館 7F
- 講師 SOU・SOU 代表 若林 剛之氏
- 司会 大高 亨氏

●SOU・SOUについて

日本にある昔ながらのよいものを見直し、ポップなテキスタイルデザインで今の暮らしに合う日用品を提案する、今、最も注目される京都ブランドです。

代表兼プロデューサーの若林剛之氏を中心にテキスタイルデザイナー・脇阪克二氏、建築家・辻村久信氏らによって2002年に設立されました。

今回の基調講演は、今話題のSOU・SOU代表兼プロデューサーの若林剛之氏をお迎えして行われました。

若い方の参加も多く、SOU・SOUの服を着て来ている方や、ブログを見て飛び入りで来ましたという学生さん等、若い世代への人気の高さがうかがえました。

大高氏の司会により、前半は若林氏のお話し、後半は質問形式で進められました。

まず、映像を見ながら一つ一つの仕事に出会ったきっかけや、その仕事への思いなど丁寧に話してくださいました。よく知られるポップでかわいい地下足袋、伊勢木綿・有松絞りの産地とのコラボによるもの作り、ジブリミュージアムのグッズ等。

脇阪氏のテキスタイルデザインをみごとに商品として落とし込んでいくすぐれたプロデューサー・若林氏の話に皆引き込まれていきました。



若林氏は、講演の中でSOU・SOUのもの作りについて、日本の伝統の軸線にあるモダンデザインを作りたい、納豆・シャケ・味噌汁のような日本の大衆文化を作りたい、そして50年後くらいに『平成の和柄』だったなというものをつくりたい、と述べられました。

さらに、若林氏は、地場産業についても言及され、たくさんの伝統的な素材は若い人との出会いを待っている、と話を続けられました。ピュアな目で素材を見て、かわいいデザインをのせて売り出すことで、地場産業に新たな風をうみだすのではないかとまず何かよさを知ってもらうことが大切なのでは?と特に若い方達に向けて熱く話ってくださいました。

時代を読み取る力と直感力にすぐれた若林氏のお話は、とても興味深く、また考えさせられる貴重なものでした。そして、日本のテキスタイルに、別の角度から新しい風を吹き込んでくださったような小気味よさを感じました。

(内丸 もと子)

交流パーティ

- 日時 2010年5月22日(土)17:00~19:00
- 場所 大阪市 綿業会館

基調講演が終わると隣に準備されていたパーティ会場へ移動しました。参加者はおよそ60名で講師の若林氏とスタッフのみなさん、賛助会員、正会員をはじめ学生や一般の方たちも多数で参加いただきました。

坂口副理事長の乾杯の挨拶で始まり、終始賑やかなパーティとなりました。若林氏はパーティの間中、たくさんの人達に取り囲まれ質問攻めにあわれていた様子です。

講演でお疲れのところ、お食事を召し上がる間もないのではと心配していました。学生のリクルートの質問にも大変丁寧な対応をいただき感謝しています。

立食スタイルのパーティでしたが、テーブルごとにいろいろな話題に花が咲き、ときに歓声が聞かれました。新入会の申し込みや暖簾展に出品希望の学生もあり大変有意義な時間を過ごすことができました。

